

古事記読書会「弥栄(いやさか)の会」第5回 報告書

開催日 第4土曜日 2019年2月23日(土) 9時半～12時
開催場所 中日本建設コンサルタント(株) 東京支社会議室(四ツ谷)
参加者 4名(会員3名、サポーター1名)

内 容

(1)参加者自己紹介

(2)本日の朗読の進め方(リーダー)

今回は順番どおり第三集「少彦名(すくなさま)」を味わいます。内容としては、第六章すくなさま、第七章おまつり、に加えて、編者である栗山先生が書かれた「改編に際して」までを一気に読みます。栗山先生は阿部先生のお弟子さんで、第一集～第二集までをわかりやすくまとめてあります。

(3)朗読

阿部國治著・栗山要編「新釈古事記伝 第4集 受け日」を車座になり全員で順番に輪読。約2時間余り、節ごとに交代しながら輪読し、章ごとに互いの感想を確認しあいながら読み進んだ。最終章の「受け日」を丸々残して終了。

(4)読後感

○今回のテーマの「ことよさし」もとても深いテーマでした。人間であること、日本人であること、この家族の一員であること、この会社の社員であること、私は、こららの「こと」を全うするための努力をしているだろうか。そもそも何をすべきか分かっているのだろうか。と考えさせられました。

ご先祖が苦難と困難を伴って開拓したこの世界を、享受するだけ享受して、感謝する心すら忘れて、「なきいさち」になっている気がします。

自分に与えられた役目を明確に把握する努力をし、その役目を真心をもって、ただひたすらに邁進することを教えていただきました。

○新釈古事記伝では「(古事記を) 味わいたいと思います」と、「(古事記を読んで) 反省したいと思います」の二つがよく出てきます。今回の「受け日」では、いつにも増して味わい、反省したように思います。一行にも満たない古事記の文から大きな物語が展開されていて、自分なりに様々なことを考えさせられました。単語というよりは一つの文字の意味や文字と文字との関連、いわれなど、まだまだ理解が及ばず、味わいつくせません。前回の「少彦名」から今回の「受け日」を味わってみて、なんとなく、尊いものは人の中にあるということを感じています。難しくはありますが、同時に古代からある言葉の意味が現代にも通じることが、面白いと思いました。

○阿部先生の解説を読むまでは、古事記のできごとを単なるエピソードとしか捉えていなかったのですが、昔の日本人は不思議なお話の世界を作ったのだな～ぐらいにしか考えていませんでした。日本人としてどう生きるかを考えさせてくれる素晴らしい本でした。この本に出会えたことに感謝したいと思います。

※日程が変更になりました。ご注意ください。次回3月は**第5土曜日**になります。

次回予定 2019年**3月30日(土)**9時半～12時@中日本建設コンサルタント(株)東京支店会議室

今回は、もう一度「**第四集 受け日(うけひ)**」を味わいたいと思います。

以上